5　研修業務等

1）　平成18年度保健所試験検査担当職員研修会

研修目的：保健所で行う試験検査等に必要な技術及び知識等の習得と検査精度の向上を目的とする.

⑴　第一期：6月7日～6月9日

・参加者：18名

・研修内容：

業務検討会：

1．ツキヨタケの簡易鑑別法について

2．EHT培地における3時間後溶血菌株の同定について

3．腸管出血性OUT検出事例について

4．食品の微生物学的検査における内部精度管理の検討

5．平成17年度結核研究所研修の報告

微生物関係実習：

病原菌（赤痢菌，コレラ菌，チフス菌等）の分離法と確認検査について

⑴赤痢菌，コレラ菌，チフス菌の分離法と確認検査

⑵病原因子のPCR法による確認検査

理化学関係実習：

食品添加物検査・内部精度管理の基礎及び機器の操作・メンテナンス技術の習得

⑴パラオキシ安息香酸エステル類の検査法

平成17年12月通知法のまとめ

前処理・定量・結果のまとめ

内部精度管理の実際

⑵プロピレングリコールの検査法

測定機器の操作及びメンテナンス方法

⑶統一内部精度管理等の説明等

亜硝酸ナトリウム検査を中心に

⑵　第二期：11月8日～11月10日

・参加者：9名

・研修内容：

微生物関係実習：

稀な食中毒菌の検査法

Y.enterocolitica,A.hydrophila,A.sobria,A.caviae

P.shigelloides,V.vulnificus,Salmonella sp O4 H-

Listeria monocytogenes

事例報告（前期レポートから）

理化学関係実習：

食品添加物（食用タール系色素）検査手順の確認

前処理・定性・結果のまとめ

食品中のスーダン色素及びパラレッド試験方法の確認

前処理・定性・定量・結果のまとめ

事例報告（前期レポートから）

2）　第27回山形県衛生研究所業務報告会

平成19年3月1日（水）開催

理化学部

・畜水産食品中の残留動物用医薬品一斉分析法の検討 -LC/MS/MSを用いた検討-　須貝　裕子

・平成18年度農産物の残留農薬検査- ポジティブリスト一斉分析法の検討-　鐘水いずみ

・環境放射能モニタリング強化時の調査　熊谷　昭彦

・平成18年度県内温泉の再分析結果　本間　弘樹

・家庭用品のホルムアルデヒド検査　齊藤　寿子

・機能性食品としての食用菊の利用法開発　沼澤　聡明

・有毒植物による食中毒の原因究明（トリカブト）を用いた検討－　伊藤　健

・スギヒラタケの生物活性およびアルカロイド画分の分析　笠原　義正

・「医薬品の試験検査機関における試験検査実施の基準」に係る現状と課題（紙上発表）　本間　弘樹

微生物部

・エンテロウイルス71型の変異と抗原性に関する研究（経過報告）　水田　克巳

・山形県民の日本脳炎ウイルスに対する抗体保有状況　須藤亜寿佳

・同定が難しかったエコーウイルス18型の流行　青木　洋子

・結核患者接触者健診における全血インターフェロンγ応答測定法の実施状況　青木　敏也

・つつが虫病の発生状況について　金子　紀子

・2006年山形県感染症発生動向調査における主な流行疾患の解析（紙上発表）　保科　仁

生活企画部

・空中スギ花粉アレルゲン（Cry j 1）の測定- ラテックス凝集反応法，蛍光ELISA法およびESRラジカルイムノアッセイ法-　安部　悦子

・2006年の花粉情報提供の状況と今後の花粉情報提供の方向　會田　健

・空中アレルゲンの高感度測定法の開発　-ESRラジカルイムノアッセイ法による空中ダニ抗原の測定-　髙橋　裕一

・イムノブロット法による空中真菌アレルゲン測定法の開発- 空中クラドスポリウムアレルゲンの測定と季節変動-　鈴木　道子

・先天性代謝異常等マス・スクリーニング検査実施状況（平成18年度）（紙上発表）　鈴木　道子

3） 山形大学理学部インターンシップ

期　間　平成18年８月21日～25日
実習生　山形大学理学部生物学科３年生　１名
実習内容
　生活企画部の業務内容説明
　　先天性代謝異常等スクリーニング検査
　　花粉症予防対策事業に係る検査
　理化学部の業務内容説明
　　残留農薬検査
　　理化学的業務と公衆衛生の関連
　　温泉分析，環境放射能
　　食品添加物
　　食中毒など健康被害に関する事例
　微生物部の業務内容説明
　　ウイルス検査
　　細菌検査
　　感染症情報（データの集計・統計）

4） 中学生の職場体験

期　間　18年８月２日
実習生　山形市立第４中学校２年生　３名
実習内容
　衛生研究所各部の業務について

6　夏休み親子科学教室

1） 開催テーマ：発見！花の色の秘密- 紅花染めも体験-
2） 開催日時：平成18年７月25日（火）13時30分から15時30分まで
3） 参加者：小中学生22名，保護者18名
4） 担当：理化学部
5） 内容：草花や野菜の色とその利用法，食品への応用を学ぶ．天然着色料と合成着色料を区別し，着色料の使用されている食品を探してみる．食品添加物（着色料）の表示や身体に対する影響を考え，健康を守る方法を子どもの時から身につけることを目的とする．

①花びらや紫キャベツで色の変化を見てみよう
②ベニバナの色素を取り出してみよう
③紅染めを体験してみよう
④天然着色料と合成着色料を区別してみよう
⑤色素の利用法はどんなもの？

7　調査研究課題の評価（外部評価）

山形県研究評価委員会により，平成19年度実施予定課題の事前評価が実施された.

一般研究課題・業務課題

研究課題名	研究機関	評価結果		評価委員会助言・指導
		評価	区分	
空中ダニアレルゲンの高感度測定法の開発	衛生研究所	△	A	実施手法を明確にして研究を進めていただきたい．今後，他のアレルゲン（花粉など）との相互増強作用の解明なども進められたい.
有毒植物による食中毒の原因究明	衛生研究所	○	A	衛生研究所として取り組むべき課題と考える．簡易分析法の確立など全国でも利用されるような成果を期待する.
機能性食品としての食用菊の利用法開発	衛生研究所	△	A	3機関の連携を密にし，それぞれの機関の研究分担を明確にして，本県食用菊が他県産に比べて優れている点を見いだし，市場を意識した研究を進めてほしい.
エンテロウイルス71型の変異と抗原性に関する研究	衛生研究所	◎	A	積極的に成果を公表しており国際的にも高い評価を得ていると感じる．優れた研究成果であり高く評価する.
職員研修費	衛生研究所	◎	業務	高い技術・研究レベルを保つために必要な研修である.
衛生研究所施設・設備整備費	衛生研究所	◎	業務	衛生研究所の研究・業務に必要な備品と認められる.

評価結果

・今後の研究展開が期待でき，要求どおり措置し，実施すべき課題 ・公募型研究課題にあっては，今後の研究展開が期待でき，申請を妥当とする課題	◎
・概ね的確であるが，さらに研究計画を精査し，または研究を特化したうえで実施すべき課題 ・公募型研究課題にあっては，申請を妥当とする課題	○
次の事項に係る研究会の実施等から取組みが求められる課題 ・研究の手法，競合研究や周辺特許などの状況について調査・学習 ・市場性，マーケティング戦略，研究や産業化の実現可能性等の調査検証 ・公募型研究課題にあっては，内容の見直しをして進めるべき課題	△
提案内容について今後さらなる検討を要する課題	×

研究の熟度評価

・研究開発を実施していく段階にあるもの	A
・フィジビリティスタディ，マーケティング調査などを実施すべき段階のもの	B
・事前調査等研究会レベルから実施すべき段階のもの	C